



JAL FOUNDATION
公益財団法人JAL財団

事業報告書

2022 年度
(令和 4 年度)

公益財団法人JAL財団

目 次

● 事業の概要

I．地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム _____ 3
2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業 _____ 4
3. 地球人講座 _____ 4
4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業） _____ 5
5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム _____ 5

II．日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト _____ 5
2. ハイク普及活動等への協賛 _____ 6

III．航空と環境の共存を目指すための調査・研究事業

1. 新大気観測 _____ 7

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会 _____ 9
2. 賛助会員 _____ 9

● 事業報告の附属明細書 _____ 9

別添：評議員・理事・監事（2023年3月31日現在）

賛助会員（2023年3月31日現在）

●事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム

(1) アジア・オセアニア地区大学生対象プログラム

アジア・オセアニアの大学生・大学院生を日本へ招待し、様々な研修や文化交流を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成することを目的としたこのプログラムは、1975年（昭和50年）に日本航空によって開始された。1990年（平成2年）に発足した日航財団（現JAL財団）が、その運営を引き継ぎ、充実を図りつつ、これまでに1,664名の海外学生の参加を得るに至る。

コロナ禍により2020、21年度は催行を中止したが、第51回となる2022年度はこの状況を打開すべく、初めて訪日旅行を伴わない「オンライン形式」で開催した。オンラインではあったが、各参加地域では感染状況が許す限り、JAL支店などへ集合し部分的に対面で開催できる様に企画立案したこともあり、恒例の夏季休暇時期の6～7月ではなく11月～12月の開催となった。大学の授業時間である平日を避け、週末土、日曜日の11月26日、27日、12月3日、4日、10日、11日、17日に実施した。

今回のプログラムには、北京、上海、大連、韓国、インド、台湾の6つの地域から計24名が参加し、うちインドからは国際交流基金の社会人1名（デリー大学卒業生）がオブザーバーとして参加した。企画ならびにファシリテーターについて、公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）の協力を得るとともに、日本人大学生11名にもサポートしていただいた。

2022年度のプログラムは、テーマである「SDGs ～持続可能な未来へ～気候危機と私たち。踏み出そう、未来に続く豊かさのために」のもとに、NGO「Climate Integrate」代表理事の平田仁子さんに気候危機や世界の現状について、国立環境研究所社会対話・協働推進室コミュニケーターの宮崎紗矢香さんにユースや市民の活動や気候危機に対する解決策について講義していただいた。また、宮城県エコラの森「鳴子温泉もりたびの会」や神奈川県相模原市「日本フードエコロジーセンター」をリアルタイムで繋ぎ、オンラインフィールドワークも実施した。

プログラムの最終日には、内外の学生が協力して考え、調べ、議論したことをアクションプランとして発表を行った。初のオンライン形式によるプログラムであったが、各地域から複数のスカラー生の参加が可能となったため、同じ地域内のスカラー生の絆も深まる様子が印象的だった。

(2) 同窓会開催

2022年度は、タイ地区でオンライン形式での同窓会（リユニオン）を12月15日に開催した。当日は、当プログラムのOB（1985年第12回参加）で、現在在福岡タイ王国総領事館総領事もオンラインで参加した。また、2023年2月24日には台湾地区で集合型の同窓会を開催した。2015年以来8年ぶりの開催であったが、前述の2022年スカラー生5名

を加えた 12 名が集まり年代を超えた交流を深めた。

2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

JAL 財団は、「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」より委嘱を受け、「空の日」・空の旬間」事業の一つである「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営に当たっている。この事業は、次世代を担う中学生に空港や航空に対する理解と関心を深めてもらい、視野の広い若者へ育成することを目的としており、成田国際空港や海外の主要空港、航空機メーカー、運航乗務員養成施設、機内食工場の見学、また、現地学生との交流等を実施している。1994 年度（平成 6 年度）より実施しており、2019 年度までの参加中学生は累計 432 名に達している。

2022 年度については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。

3. 地球人講座

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、第一線で活躍する講師による小中高校生を対象とした「地球人講座」を 2003 年度（平成 15 年度）より国内外の各地で開催している。2022 年度については、11 月に JAL 山陰支店と共催で島根県立三瓶自然館サヒメルにおいて、ロケットの追尾・監視・計測の専門家である JAXA 特任担当役 宮里 光憲氏をお招きして開催した。講演後には、ロケットの部品を直接手で触れながら講師と質疑応答を行い、地元の約 50 名の参加者からは「将来の夢を考える機会になった」等のご感想をいただいた。宇宙飛行士の海外講演については、2023 年 2 月に「地球人講座 in アジア・JAXA 宇宙飛行士オンライン講演」として金井 宣茂宇宙飛行士を講師に迎え、韓国・フィリピン・ベトナム・マレーシア・インドネシアの 5 ヶ国と日本を ZOOM ウェビナーで結んで開催した。アジアの日本人学校 15 校の小中学生とそのご家族約 500 名が視聴した。講演中には参加者がチャット欄に感想や質問を書き込み、金井宇宙飛行士が回答する、といったリアルタイムの双方向コミュニケーションが展開された。「勉強になった、楽しかった」という参加者のコメントだけでなく、数々のオンライン講演を経験されている金井宇宙飛行士からも「チャットを使ったライブ感のある講演は、今までになく大変楽しかった。」とのご感想をいただいた。

第 31 回

- ・開催日：2022 年 11 月 19 日
- ・講師：JAXA 特任担当役 宮里 光憲氏
- ・テーマ：「生活に役立っている宇宙技術と宇宙開発最前線」
- ・開催地：島根県立三瓶自然館サヒメル
- ・聴講者：約 50 名
- ・共催：日本航空株式会社
- ・協力：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

第 32 回

- ・開催日：2023 年 2 月 12 日
- ・講師：JAXA 宇宙飛行士 金井 宣茂氏
- ・テーマ：「ISS での国境を越えたチームワークと最新の宇宙開発」

- ・開催地： アジア 5 개국(韓国、インドネシア、ベトナム、フィリピン、マレーシア)と日本を結んだオンライン開催
- ・聴講者： 約 500 名
- ・共催： 日本航空株式会社
- ・協力： 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）

JAL 財団では、国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を研修生として受け入れ、日本での就業機会を提供するインターンシップ事業を実施している。1990 年度（平成 2 年度）に開始し、これまでに累計 38 名の外国人学生を受け入れてきた。

研修生は、JAL 財団スタッフとして日本での仕事を体験し、さらに JAL グループのボランティア活動等へ参加することにより、日本語能力の向上と日本文化・社会への理解を深めている。また、JAL スカラシッププログラムの運営にも携わることで、海外スカラ生を支援し交流促進に努めている。

2022 年度については、北京外国語大学と開始時期等の調整を行ったが、最終的に来日に関わる諸条件が改善せず、前年度に引き続き中止となった。

5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム

JAL 財団は（公財）東日本鉄道文化財団と双方の公益事業について協力を行っており、その一環として、東日本鉄道文化財団が毎年、アジア諸国の鉄道会社若手社員を日本へ招聘する研修プログラムに対して「安全」をテーマとする研修協力を実施している。具体的には、フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、モンゴルからの 8 名の研修生を受け入れ、日本航空整備工場の視察プログラムや、同社の安全啓発センターの見学等を斡旋した。なお、この研修協力は、2007 年度（平成 19 年度）に開始し、2022 年度までの受入数は 117 名に達している。

Ⅱ．日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイコンテスト

1964 年（昭和 39 年）に日本航空がアメリカの音楽番組で呼びかけた「ハイコンテスト」に始まる海外での俳句普及の取り組みを、1990 年（平成 2 年）設立の日航財団（現 JAL 財団）が引き継ぎ、日本と世界の 15 歳以下の子どもたちを対象とした「世界こどもハイコンテスト」を 2 年に一度開催している。このコンテストは、世界の子どもたちにハイク創作の楽しさを広め、世界で最も短い「詩」であるハイクを生み出した日本文化への理解と国際交流を促進することを目的として、各国の教育機関、日本航空海外支店などの協力を得て開催している。なお、その作品はハイクと絵で構成することとしており、ハイクを詠むとともにその目の光景や記憶にある情景を自らの手で絵に描きとめてもらうことにより、子どもたちのより豊かな感性を養うこととしている。

2021 年度（令和 3 年度）開催の「第 17 回世界こどもハイクコンテスト世界大会」は、2022 年 2 月末に募集を終了し、初参加のガーナとモザンビークを含む 49 の国と地域から 17,699 作品が集まり、各地にて審査、表彰が行われた。各日本大使館他のご協力により、コロナ感染症への対策を講じた上で対面での表彰式を実施する機会が増え、子どもたち、教師の皆さまから「ようやく対面で表彰式ができるようになり嬉しい限りです」等の声が多数寄せられた。尚、日本大会、世界大会のすべての入賞作を JAL 財団 WEB サイトで紹介し、そのうち 165 作の大賞作品をまとめた『地球歳時記 vol.17 まちのうた』を 2023 年 2 月末に出版した。

JAL 財団は、その一定部数を出版社より買い取り、国内の主な俳句関連施設や図書館、海外の関係機関に寄贈している。2023 年 2 月 24 日には、日本航空各支店の「ハイク・スカラ担当者」を東京・天王洲に召集し、4 年ぶりに対面会議を開催した。会議プログラム内では宮下理事に、俳句制作、指導審査における留意点をご講話いただいた。21 名の参加者は、自ら俳句を詠む体験も経て、俳句をより身近に感じ帰国した。

※これまでの参加国・地域

アイルランド、アメリカ、アラブ首長国連邦、アルメニア、アンゴラ、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、エクアドル、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、ガーナ、カナダ、カンボジア、ギリシア、クロアチア、ケニア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロベニア、セネガル、タイ、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パラオ、バングラデシュ、東アジア、フィジー、フィリピン、フィンランド、ブータン、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベトナム、ポーランド、ポルトガル、マレーシア、メキシコ、モザンビーク、モルディブ、モロッコ、モンゴル、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ロシア

「第 17 回世界こどもハイクコンテスト」の概要

開催期間： 日本大会 2021 年 6 月 1 日～2021 年 9 月 30 日

世界大会 2021 年 10 月 1 日～2022 年 2 月 28 日

テーマ： 「まち」

協力： 国際俳句交流協会

協賛： 日本航空(株)

後援： 外務省、文化庁、（独法）国際交流基金、（公財）日本ユニセフ協会

2. その他のハイク普及活動、ハイク関連事業への協賛

国内外の俳句大会等への協賛にあたり、大会会場において「地球歳時記」や優秀作品のバナーによる展示を行い、世界こどもハイクコンテストの存在と各国の子供たちのハイク創作の実情の紹介に努めている。

・第 25 回 松山「俳句甲子園」への協賛

1997 年（平成 9 年）以来、毎年 8 月に愛媛県松山市で開催される「俳句甲子園」（全国高校俳句選手権）に協賛し、賞品を提供している。

・第 27 回「草枕」国際俳句大会（熊本）への協賛

1996 年（平成 8 年）に夏目漱石来熊 100 年記念事業として創設された「草枕」国際俳句大会に協賛し、「JAL 財団賞」を提供している。

・その他

松山市立子規記念博物館にて年に 2 回、1～3 か月の期間で「世界こどもハイクコンテスト」の作品展示を定期的に行い、ハイクコンテストの紹介を行っている。

（2022 年度は、9 月 2 日から 9 月 29 日、12 月 23 日から 3 月 30 日までの 2 回開催）

Ⅲ. 航空と環境の共存を目指すための調査・研究事業

1. 新大気観測

民間航空機に上空の温室効果ガスを測定する装置を搭載して観測を行い、温室効果ガスの空間分布を明らかにし、研究成果の公表や観測データを国内外の研究者に提供することにより、地球温暖化メカニズムの解明に資することを目的とする事業である。また、研究成果や観測データの公開や取り組み内容の公表を通じて、地球環境に対する国民的関心の向上を図ることも目的としている。

この事業は、国立環境研究所、気象庁気象研究所、(株)ジャムコ、(株)日本航空と共同で実施している調査・研究事業であり、観測装置の開発、温室効果ガスの観測・研究成果の公表を国立環境研究所、観測データの品質評価を気象庁気象研究所、観測装置の搭載に係わる航空機改修とそれに関わる当局の承認取得を日本航空、観測装置の整備と運用性の確認をジャムコ、「航空機による地球環境観測推進委員会」の事務局業務とプロジェクト一般の広報活動を JAL 財団が主に担って推進している。

観測データは国内外に広く開示されており、それに基づく研究成果については、この事業に参加する研究者に留まらず国内外の多くの研究者により論文にまとめられ、また、学会等で発表されている。なお、この事業は、1993 年（平成 5 年）の開始からすでに 29 年を経ているが、このように長期にわたる継続的な航空機による大気観測の取り組みは世界に類がなく、その研究成果とともに国内外から高く評価されている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国際線・国内線の大幅な減便が実施されたが、日本航空各部門との連携強化により、機器搭載する機材の運航便を適切に捉えて観測を実施した。

・航空機による地球環境観測推進委員会

産官学の有識者から事業への助言を得るための会議体であり、事務局を JAL 財団が務めている。2021 年度（令和 3 年度）より第 4 期の 5 年にわたる取り組みが始まり、2023 年 3 月 31 日第 4 期第 2 回委員会を対面開催にて実施し、2022 年度の観測実績などを報告した。

・観測実績

◎大気サンプリング装置

自動大気サンプリング装置（ASE）及び手動大気サンプリング装置（MSE）を使用した大気採取による CO₂、CO、CH₄、N₂O、H₂、SF₆、各同位体の濃度測定。

測定回数総計 525 回

CY05	1 回	CY06	20 回	CY07	18 回	CY08	23 回
CY09	25 回	CY10	20 回	CY11	21 回	CY12	31 回
CY13	35 回	CY14	30 回	CY15	34 回	CY16	24 回
CY17	23 回	CY18	43 回	CY19	36 回	CY20	49 回
CY21	45 回	CY22	47 回				

◎二酸化炭素自動連続測定装置

CO₂ 濃度連続測定装置（CME）を使用した CO₂ の濃度測定。

測定回数総計 27,179 回

CY05	59 回	CY06	707 回	CY07	1,547 回	CY08	1,069 回
CY09	1,260 回	CY10	1,145 回	CY11	1,275 回	CY12	1,372 回
CY13	1,744 回	CY14	1,885 回	CY15	2,464 回	CY16	2,327 回
CY17	1,915 回	CY18	2,017 回	CY19	2,158 回	CY20	1,299 回
CY21	1,336 回	CY22	1,600 回				

注. ASE=Automatic Air Sampling Equipment、MSE=Manual Air Sampling Equipment、
CME=Continuous CO₂ Measuring Equipment

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会

- ・ 第 86 回理事会 （書面開催）

2022 年 5 月 23 日

- 1 2021 年度事業報告及び附属明細書について審議承認された。
- 2 2021 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
- 3 定時評議員会招集について審議承認された。

- ・ 第 61 回評議員会 2022 年 6 月 7 日

- 1 2021 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
- 2 評議員の辞任に伴う評議員の選任について審議承認された。
- 3 2021 年度事業報告が行われた。

- ・ 第 87 回理事会 2022 年 6 月 7 日

2022 年度第 1 四半期の業務執行報告が行われた。

- ・ 第 88 回理事会 2023 年 3 月 10 日

- 1 2023 年度事業計画及び収支予算の件について審議承認された。
- 2 2022 年度業務執行報告（2022 年 7 月～2023 年 3 月）が行われた。

2. 賛助会員

43 社 [2022 年度末現在]

以 上

● 事業報告の附属明細書

2021 年度事業報告には、定款第 9 条及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

【別添】

評議員・理事・監事

(2023 年 3 月 31 日現在)

役職名	氏 名	所 属
評議員	青木 周司	東北大学大学院 理学研究科教授
評議員	清水 新一郎	日本航空株式会社 代表取締役副社長執行役員
評議員	下村 満子	ジャーナリスト、一般財団法人東京顕微鏡院 特別顧問
評議員	進 俊則	公益社団法人日本航空機操縦士協会 会長
評議員	田口 久雄	一般財団法人 日本航空協会 監事
評議員	原口 幸	株式会社ジェイアール東日本企画 取締役社長
理事長	植木 義晴	日本航空株式会社 取締役会長
理事	安岡 善文	東京大学名誉教授
理事	早水 研	公益財団法人日本ユニセフ協会 専務理事
理事	壬生 基博	森ビル株式会社 特別顧問
理事	宮下 恵美子	国際俳句協会 評議員
常務理事	池田 了一	常勤
監事	斉藤 典和	日本航空株式会社 常勤監査役
監事	徳永 信	宗和税理士法人 代表社員

賛 助 会 員 Members

(2022 年度末)

株式会社梓設計	株式会社 J A L スカイ九州
株式会社エージェンシー	株式会社 J A L スカイ札幌
株式会社オーエフシー	株式会社 JALUX
岡三証券株式会社	株式会社 J A L ナビア
沖縄給油施設株式会社	株式会社 J A L ファシリティーズ
空港施設株式会社	株式会社 J A L ブランドコミュニケーション
三愛石油株式会社	株式会社 J A L マイレージバンク
株式会社ジャムコ	株式会社 J A L メンテナンスサービス
株式会社 J A L インフォテック	株式会社ジャルカード
株式会社 J A L エービーシー	株式会社ジャルパック
株式会社 J A L エアテック	J A L スカイエアポート沖縄株式会社
株式会社 J A L エンジニアリング	ジャルロイヤルケータリング株式会社
株式会社 J A L カーゴサービス	大和証券株式会社
株式会社 J A L カーゴサービス九州	日航関西エアカーゴ・システム株式会社
株式会社 J A L グランドサービス	日本エアコンピューター株式会社
株式会社 J A L グランドサービス大阪	日本空港ビルデング株式会社
株式会社 J A L グランドサービス九州	日本航空株式会社
株式会社 J A L グランドサービス札幌	日本トランスオーシャン航空株式会社
株式会社 J A L サンライト	野村証券株式会社
株式会社 J A L スカイ	みずほ証券株式会社
株式会社 J A L スカイ大阪	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社 J A L スカイ金沢	

合計 43 社